

- T : はい, じゃ, お久しぶりです
- L : お久しぶりです
- T : 1年ぶりですよ
- L : そうですね
- T : うん, えーと, いろんなことが変わったかなと思いますけど<笑> (<笑>), この1年間, いろんなことがありました
- L : えー, まず, 前回お会いしたときは(うん), まだ受験生で
- T : そうそう(<笑>) そうそうそう<笑>
- L : 確か, なんか, 教科書, もちあるい, いてなん, 結構, 忙しかった記憶があります, け\*\*  
...
- T : うーん, なんか, すごい, そうだよ, 高校3年生の一番忙しい時期だ
- L : <笑>, 高校3年生の夏でしたからね
- T : うん
- L : うん, 勉強勉強勉強って感じで<笑>
- T : <笑>, そうですね, それで(うん), それから, 今まで1年間, いろんなことがありました?
- L : そうですね, まず, 受験勉強をやって(うん), で, ハラハラドキドキの受験を<笑> (<笑>), 迎え(うん), で, ま, 無事, 合格して, ま, 第一志望の大学だったんで(うん), ほんとに良かったなって(うん), すごく, みんな喜んでくれ, ましたし(うんうん), 中国の, あの, 親戚たち\*, おじいちゃん, おばあちゃんたちも(うん), ほんとに喜んでくれて(うん), ま, 自分も, いち, すごく嬉しかったんですけど(うん), でま, 大学入ってからは, やっぱり大学なんで(うん), あの, 似たもの同士が集まるじゃないですか, あの, こう, 国際関係に興味がある人たちっていうか
- T : あ, えーと, 専攻はなんでしたっけ?
- L : あ, 専攻は中国語科ですけど
- T : え, 学部とかは, どうなってるんですか?
- L : 学部は外国語学部しかなくて(はい), {学校名}は(はい), で, その中の, あの, いろいろ言語があるんですけど(ええ, ええ), 全部で26言語あるんですけど(はいはい), その中でも, わたしは中国語専攻(はい), 選んで(ええ, ええ), ま, 今までも, ま, 中国語は, ほんとに, 日常会話とかも全然支障ないくらい話せるんですけど(うん), やっぱり, あの, 難しい本とか読んだりすると, ほんとに意味わからない言葉とか, 漢字とか(うん), たくさん出てきてしまうんで(うん), やっぱり, ちゃんと勉強したいなと思って(うん), はい, で, ま, 中国語専攻, なって(うん), ま, 中国に興味のある友だちとかもいっぱいできて(はい), ほんとに, 最近は, 結構楽しい, 自分らしい生活を送れているなって, 思ってますね
- T : ふーん, え, 自分らしいっていうのは?
- L : そうですね, あの, 高校の時は(うん), こう, やっぱり, その, 地域的に近い, ん?, あの, 地域で集まるじゃないですか, あの, 高校のクラスメイトとかも(うん), べつに, あの, みんなが, この, こういうことを学びたくて, この, 高校に来たっていうよりも(あー), 家が近いからとか(うんうん), そういう理由で(うん), ま, 集まってきた

た人たちなんで（うん）、あの、やっぱり、みんな、夢とか、あの、興味のあることとか（うん）、様々じゃないですか（うん）、だから、自分の、その、興味のある分野とかについても、話せる人がなかなかいなかったし（んー）、でもそれに比べると、あの、大学入ってから、ほんとに（うん）、あの、興味がすごく合う友だちとか（うん）、もう、ほんとに、たくさん、そういう、かかわりができて（うん）、そういう出会いも、いっぱいあって、そうですね、ほんとに、自分の好きなことを、たくさんやれている生活だと思いますね（うん）

T : えーと、中国語専攻というのは、中国、どういうことに興味がある人たちが集まっているんですか？

L : そうですね、中国の（うん）、あの、言葉が、まず、一番大きいんですけど（うん）、あと、あの、最近の中国は、なんか、経済発展がすごいから（うん）、これからは、きっと中国の時代になるら、だろうっていう友だちも、たくさん（うん）、い、いますし、はい、あと、あ、中国の三国志とか（うん）、すごく語れる人も、たくさんいますし（ふーん）、ま、ほんと、様々な面ですね（うん）、あと、中国の景色が美しいからって、絶対中国旅行をしたいって（うん）、中国全土を制覇したいとかっていう友だちもいるし（ふーん）、さまざまですね（うん）、はい

T : えーと、他の人は、みんな日本人っていうか（あー）、日本、ルーツ中国のある人いるんですか？、他にも？

L : そうですね、あの、たいていは日本人ですけど、何人かいます、あたしみたいな（うん）、あの、ルーツの人たちも、何人かいて、その人たちは、もう本当に、あの、こう、考え方とかも、その、中国の考え方をしっかり持つて人たちなんで、ほんとに、今、すごく仲良くさせてもらってますね（んー）、はい

T : えーと、その、完全に、あの、日本ルーツの人と、中国にちょっとルーツのある人との間で（はい）、やっぱり、いろいろ考え方が違ったり、感じ方が違ったりっていうの、ない？…

L : そうですね（うん）、やっぱり、ありますね（うん）、あの、そ、あの、あたしの今の友だちは、もうみんなあたしみたいに、ほんとに、日本に来て、7年も8年もたっていて（うん）、で、あの、こう、日本の考え方とかも、む、ちゃんと理解していて、日本人とも普通に、日本人の感覚で（うん）、あの、交流できる人たちばかりなんですけど<笑>（うん）、やっぱり、あの、その、中国人だけっていう、あの、場になると、その、あたしたちだけになってしまうと、どうしても、あの、昔は、こうでこうでこうだったよねっていう感じの話題になって、あの、なんだろう、こう、やっぱり、中国の感覚がすごく蘇ってきて、はい、もう、ほんとに、そういう会話が、ほんとに楽しくて（うんうん）、はい

T : で…

L : だから、そうですね、あの、やっぱり、違うんですよ（うん）、<笑>、その、接し方とかも（うん）、その、中国人の、せ、あの、人との接し方とか、日本人は、やっぱり、どこか、遠慮しがちなところがあるし、も、中国人は、なんか、ずばずば言う傾向とか、結構あるし、ま、そういう点でも違うし、他にも、ほんとに違うとこ、いっぱいあるんですけど、そうですね、ま、最近は、そういうギャップをすごく感じる人が多いですね

- T : うん、あ、そうやって、その、日本の人とかかかわるときと、あ、おんなじ学生の中でも（はい）、中国ルーツのある人とかかかわるときと、こう、違う中で、自分の中が、こう、ちょっと、混乱したりとか、そういう感じはないですか？
- L : 混乱は、あんまりしないんですけど（うん）、やっぱり、ちょっと、あの、言い方が変かもしれないんですけど（うん）、ちょっと使い分けてるところは、やっぱり、ありますね（うん）、あの、感覚を（うん）、やっぱ、日本人と話すときは、ほんとに日本の感覚だけで（うん）、あの、話せるんですけど、中国から来た、わたしと同じような人と話すときは、やっぱり、こう、ほんとに、遠慮がいらぬ感じで（うん）、あの、ほんとに、思ったことを、何でもしゃべってしまって、はい、<笑>
- T : そうすと、か、例えば、10人ぐらいで、6人ぐらいがそのルーツで、ま、1人でもその中に日本人が入ると、日本的なかわり方をするってことですか、敢えて？<笑>
- L : あー、でも、そうですね、やっぱり、気をつかいますよね<笑>（んー）、あの、いると、その、やっぱ、あの、中国ルーツを持った人たちは、日本人に合わせることはできるけど、その、純粋な日本人は、あたしたちに合わせることはとても難しいので（うん）、そういうときは、やっぱり、ほぼ、その、日本人に合わせて会話とかしたりするんですけど、でも、まー、たまに、中国で、あたしたちはこうだったよねっていう、話になって、その、日本人の友だちが、え、なにになになにそれって、中国では、どうなってるの？、みたいな感じで、話が展開していくことも結構ありますね、はい
- T : ただ、ま、それ、今、あの、その、日本人に気をつかうっていうか、思いやりかもしれないけれど、例えば、その日本人が中国に行ったときには、中国のことが理解できないと困るわけだから…
- L : まー、そうですね
- T : どう、どう、それ、それを今から要求していくっていうやり方はないんですか？
- L : 要求、そうですね、んー<笑>（<笑>）、でも、あの、どうしても（はい）、ほんとに、日本人にとって、これはほんとに受け付けないっていうやり方も、中国にはほんとにあるので、やっぱり、そういうの、無理矢理押しつけるのも、ちょっと、かわいそうっていうか<笑>（うん）、ん、たぶん、あの、話しづらいと思うんで、そういうところは、ほ、ちょっと、ほんとに、避けるようにしてるんですけど、んー、でも、ある程度、ほんとに、今、中国語科の友だちっていうか、あの、ほんとに{学校名}全体的に、みんな、結構、こう、ワールドワイドの感じで（うん）、すごく、あの、視野が広い人たちが集まってるんで、あの、こう、世界中には、いろんな考え方があって、それがあたりま、あ、え、ん、それが当たり前なんだって（うん）、ちゃんと理解してる人たちなんで（うんうん）、あの、なにか、こう、違うところ、違う、あの、感覚（うん）を、ちょっとさらけ出しても、あ、そういうふうになってるんだねって、分かってくれる人が、やっぱり多いんで（うん）、ま、そこらへんは、だいたい、高校のときとは違って（はい）、やりやすいっていうか、はい
- T : えーと、こないだ、選挙、衆議院選挙がありましたよね？
- L : あ、そうですね、はい
- T : はい、えーと、たぶん、日本全国でいろいろ騒いでたかなと思うんですけども（そうですね）、えーと、今、国籍は中国？

- L : 国籍は日本ですね
- T : 国籍は日本？
- L : はい
- T : はい、もうすぐ選挙権が、じゃー
- L : そうですね、来年には、もう…
- T : はい、あの（はい）、どうですか、自分では、たぶん中国人だと思ってるって、前、仰ったような気がするんですけど、どうですか？
- L : そうですね、やっぱり、どちらかというとき＜笑＞（はい）、中国人だと思ってる（ええ）んですけど、選挙権ですね、あ、でも、日本に住んでいる以上は、ちゃんと、ま、日本のことも大好きですし（うんうん）、日本に住んでいる以上は、ちゃんと、こう、まー、国籍も日本だから（うん）、ちゃんと、国民としての役割を果たして、投票とかもちゃんと行きたいな、ちゃんと研究してから＜笑＞（うん）、行きたいなって思ってますね、結構、なんとなくで、とうきょうして、投票してる人たちって多いじゃないですか？（はい）、だから、うん、も、そういうところは、ちゃんと自分なりに考えてから、ま、投票とか行きたいなって思いますね
- T : あの、国籍を日本にしないと、ま、何十年か、わりと、日本に住んでいても、こう、選挙権がなかったりしてるんですけど（そうですね）、はい、そういう友だちとかはいませんか？
- L : 友だちはいますね（うん）、はい、あの、永住権を持ってるんですけど（はい）、ふに、国籍は違うって
- T : ええ、で（はい）、永住権持ってる人に、例えば、地方参政権、国政、あの、せいではなく、えー（あー）、例えば、県とか都とかの（はい）、はい、は [わ]、与えようっていう動きも（あ、そうですね）、あの、うご、動く（はい）、運動もあったりするんですけど、それについてはどう思いますか？
- L : そうですね、それだったら、本当にわたしはいいと思いますね
- T : え、ちほ…
- L : ＊、与えたほうがいいと思いますね、その選挙権を（んー）
- T : うん、それはどうして？
- L : え、やっぱり外国人であつても（うん）、その、やっぱ、長年、日本に住んでいるわけだし（うん）、その、国政に反映するような、あの、国全体的な政治に反映するような、あの、選挙に参加できなくても、ま、ある程度は理解できるんですけど、やはり地方っていうのは（うん）、こう、その地方に住んでいる住民たちの、その、過ごしやすさとかを（うん）第一に考えた、あの、団体なんで（うん）、そこへの投票は、やっぱり、住んでる一員として、その、地方の住民として、その、選挙権をちゃんと与えて、あの、参政権（うん）、そうですね、参政権はちゃんと与えて、選挙も行かせた方がいいと思いますね
- T : うん、ただ、一方で、その、さんじゅうねんとか、永住権をとるぐらいだったら、もう、フルに国籍を変えたらどうかっていう意見もあるんですけども（あー）、そうであればすべての選挙権が得られる（そうですね）、それについてはどうでしょう？
- L : あー、そうですね、ま、あたしは、別に（うん）、あの、あんまり国籍にこだわりがなかったの（うん、うん）、あと、その、永住権を、日本で永住権を持っているよりも（う

ん) , 日本の国籍に変わったほうが (うん) , その, い, パスポートとか, あの, 旅行とか<笑> (<笑>), いろいろやりやすいんですよ, 手続きが (うん) , それも, 便利だからって思って (うん) , あたしは, ほんとに全然こだわらないんで<笑> (うん) , そこで変えたんですけど (うん) , あの, 友だちには, やっぱり, あの, 中国人としぬ, しての誇りを (うん, うん) , すごく持っている人がいて (うん) , その人たちは, ま, 絶対, 変えたくない (うん) 言って, ま, 別に日本の選挙権はなくても (うん) , ぶ, 別に欲しくない (うん) みたいなことを言ってた人もいますし (はい) , はい, やはり, そこは, その, 中国国民としての (うん) 誇りなんだと思いますね, はい

T : なるほど, はい, ありがとうございます (<笑>), えーと, じゃ, 今, 大学ではやりたいことがやれて, すごく面白いと, お話があったんですけど (はい) , たくさん本とかも読みまし, すよね?, 大学に入って

L : 本, あんまり (あ, そうなんですか) , 持ってないか, あ, でも, 図書館にあった (ええ) , あの, 中国語で書かれた本 (うん) , 結構ありますけど (はいはい) , そうするのは, やっぱり {学校名} じゃないと, 図書館にも置いてないんで (ふーん) , ん, そういうのは結構読んだりしてたんですけど

T : 最近, なんか, 面白い本読みました?

L : えーとですね, あ, 最近, あ, あ, でも, レポートを書くために読まなきゃいけなかったんですけど

T : あ, どんな本?

L : あの, ギリシア神話の話を読みました<笑>

T : え, 中国語ですか?

L : いえ (<笑>), あ, あの, ギリシア神話の (はい) , あの, 講義をとってるんですけど (ええ, ええ) , それで, あの, ギリシア悲劇っていう (うん) 本の中の, メ, メディアっていう話を読まなきゃいけなかったんですけど (うん) , うん, それ…

T : どんな話だったんですか?, メディア

L : メディアですね (はい) , メディアっていう女の人がいて (はい) , その人, あー, ちょっと, あんまり覚えてない, あ, まー, だいたい, あらすじとしては<笑> (うん) , その, メディアっていう女の人 (うん) , ある地の王様, 王様じゃないか, あれ, 英雄, んー, あれ, ちょっと, ちょっと待ってください<笑>

T : うん, 大丈夫ですよ<笑>

L : ちょっと記憶が, あ, あ, メディアは, あ, ある国の (ええ) 王女だったんですよ (うん) , で, ある英雄が, 英雄の名前はよく覚えてないんですけど (うん) , ある英雄が, あの, なにかの任務を果たすために (うん) , その, メディアが住んでいる国に (うん) , ちょっと, 挑戦的なことをし, しに行くんですよ (うん) , あの, なにかを取り戻す, なにかの, なんか, 宝物みたいなものを取りに行ったのかな (うん) , おそらく<笑> (うん) , ま, 行って, で, そのメディアは, その人と, あの, 恋に落ちて (うん) , あの, その, こう, いろいろ手助けをするわけですよ (うん) , 自分の, あの, 家族を裏切ってまで (うん) , その人の手助けをして (うん) , で, その人は任務を果たすんですけど, 果たして (はい) , 2人は結婚して (はい) , で, 子どもも何人かいたんですけど (ええ) , そのあと, その英雄の, 元いた場所に戻って (ええ) , あの, 英雄は, その,

その、ちょ、自分の国の、あの、王女と（ええ）、ちょっと、結婚することになってしま  
って、妻がいるのに（うん）、メディアっていう妻がいるのに（うんうん）、あの、そ  
の、妻と子どもを捨てて（うん）、その、自分の国の王女と結婚をしてしまうんですよ、  
で、まー、メディアは、すごく悲しむわけなんですけど（うん）、そこで、あの、メディ  
アっていうのは、その、なんだろう、巫女みたいな人で（ふーん）、な、なんか、あの、  
魔法が、魔法？（うん）、なんか、魔術ができるんですよ（んー）、で、あの、そこで、  
ま、悩み苦しみ（うん）、その、最終的に、あの、自分の子どもに、あの、さいしゅ、う  
ん、自分の子どもに、その、毒のある、なんか、贈り物を、その、王女に、あの、持って  
行かせるんですよ（うん）、あの、結婚おめでとうっていう感じで（うんうん）、持って  
行かせるんですけど、それで、あの、子どもも、そ、それを受け取った王女様も死んでし  
まうわけですよ、自分の子どもなのに（うん）、その、毒で、なんか、殺しちゃって、  
で、なんだろう、で、まー、夫はすごく激怒するんですけど（うん）、おまえはなんてい  
う女なんだって（うん）、その、自分の子どもを殺すなんてって、で、あなたのせいでは  
よってなって（うん）、なんか、うん、で、最終的にメディアは、その、ま、子どもも王  
女も殺したし、もう、その地には、いられないから（うん）、あの、他の人の助けを借り  
て、他の地に逃れていくんですけど、ま、そこで、物語は終わっちゃうんですけど（う  
ん）、まー、最終的には、その、メディアの、なんだろう、こう、人として、母親、母親  
として（うん）、その、子どもを殺すっていうのは、もう、ほんとに、ち、もう、人間に  
は、ちょっと、考えられないような行為をしてしまうんですけど、ま、そこで…

T： で（はい）、レポートを書いたんですよね？

L： そう、レポートを書きましたね<笑>

T： な、なんについて書いたんですか？、そのお話の

L： そうですね、あの、その、感想を書いてくださいって（うん）言われたんですけど

T： 感想のポイントは、なんだったんですか？

L： そうですね、メディアが、やっぱり、その、自分の愛する人を目の前にして（うん）、そ  
の、一人の人間とか、一人の母親とかではなく、やっぱり、一人の女としての（うん）、  
その、嫉妬とか（うん）、その、悲しみとか（うん）、愛しさとかを（うん）さらけ出し  
た、あの、行動だったと思ってますね、はい

T： えー、それは受け入れられない、いや、理解できる、ど、どっちなんですか？、立場的に  
は

L： んー、そう、いや、本当に個人的には（うん）、やっぱり、そういうことはほんとに許さ  
れないと思いますけど、でも、まー、かわいそうだなって、反面で、ちょっと思ったりも  
してるんですけど

T： かわいそうっていうのは？

L： いや、だって、自分の（うん）家族を裏切って、自分の国を捨てて、そこまでして（う  
ん）、その、結婚して（うん）、子どもまで生んだのに、その夫に裏切られて（んー）、  
もう、ほんとに捨てられて、もう、かわいそうだなって思うんですけど、でも、やっぱ  
り、そこまですることは<笑>、なかったと思いますね

T： ええ、国によっては一夫多妻のところとか（あー、そうですね）、あとは、昔の日本で  
も、その、一夫一婦制ではなかったわけですよ、完全に

L : そうですね

T : そう思ったときに、これ、それは裏切りとかいうのは、どうなんでしょうか？、そのあたり

L : そうですね、やっぱり、それは、\*、あの、そこの（<笑>）、<笑>、考え方ですよ（うん）、やっぱり、うん、ま、それが当たり前だと思って育ってきた人と、あの、やっぱり、こう、一対一で婚姻は成り立つんだって、おもい、思って、育った人との、やっぱり、価値観も本当に違うんで（うん）、うん、ま、それが当たり前だった世界にとっては（うん）、裏切りでもなく、なんでもなく、それは普通のことなんだろうし、いや、もう、ほんとに、夫婦は一対一でしかないっていう世界だったら（うん）、ま、裏切りでしかないだろうし、うん、その場所によっての、場所とか時代とかによっての違いだと思いますね<笑>

T : うん、そうすと、今でも、例えばあるところでは一夫一婦制、あそ、ある違う文化ではそうじゃないっていうところの人同士が、こう、恋に落ちたりしたときに、そこ、価値観がすごく違いますよね？

L : あー、そうですね

T : ええ、そういうときの折衷案っていうか、どっちがどういうふうに歩み寄っていけると思いますか？、もう無理？

L : えー、そうですね、ど、どっちか大事かっていう話になるんじゃないですかね、あの、うん、あの、その、自分の文化をとるのか、自分の考え方をとるのか、その人との、その、愛情（うん）をとるのかっていう、やっぱ、そういう選択に、<笑>、なるんじゃないですかね、で、ま、その人との感情を仮にとった場合、そこは、まー、自分が我慢しなきゃいけないだろうし、いや、私は、もう、ほんとに、そこまでして、あなたと結婚はしたくないって言うんだったら、んー、ま、たぶん、もう別れちゃうだろうし、ま、そういうことになるんじゃないですかね

T : それは、その場にならないと、なかなか分からないですね

L : そうですね

T : はい、わかりました、じゃ、1つ、ちょっと、ロールプレイをやってみたいんですが（<笑>）、今日は、\*\*\*、えーと、じゃ、結構、あの、外国に興味があるって言ったので（はい）、あの、じゃ、海外で1年間勉強する奨学金に応募することにしましょう

L : はい

T : で、そのために、学部長、学部長っているんですかね？、まー、そのために、ちょっと、先生の推薦書、偉い先生

L : 偉い先生

T : の、あの、学内で、推薦書が必要です（はい）、で、一応、会ったことないんだけど、その先生に、この、がく、学校、大学内？、{学校名}内の、その先生のところに行って、この、今の専攻の、少し偉い先生ね、その、推薦書を書いてくれるように、くださるよう、お願いをしてみてください

L : はい

T : いいですか？（は）、ちょっと偉い先生で

L : ちょっと偉い先生で

- T : あの、初めて会います
- L : 奨学金の推薦書、はい
- T : はい、いいですか？、じゃ、一応、あたし、その部屋にいますので、ノックして入ってください<笑>
- L : <笑>、すごい緊張するんですけど、え？
- T : 大丈夫<笑>、じゃ、ノックして、はい、どうぞ
- L : あ、失礼します
- T : はい
- L : こんにちは
- T : あ、こんにちは
- L : あの、初めてお目にかかりました（はい）、{Lフルネーム}と申します
- T : はい
- L : と…
- T : えー、はい、学生、この、何年生ですか？
- L : あ、この大学の1年生、中国語専攻の1年生です
- T : あー、そうですか、はい、で、なんでしょう、今日は？
- L : はい、えーと、あ、このたびは（はい）、えーと、あ、わたしの奨学金の（はい）、しょうがく、ん？、奨学金を請求するにあたって（はい）、あの、先生の（はい）推薦書が必要になるということだったので（はい）、あの、それを、ん？、それを書いていただけないかと思い、お願いをしに来たんですが
- T : あー、そうなんですか、えーと、どんな感じで書いてほしいんですか？
- L : どんな感じ、え、どんな感じ？
- T : はい、どんな内容-を書きましょうか？
- L : どんな内容？
- T : はい
- L : え、内容？、え、どんな内容を書けばいいんですか？
- T : えーと、推薦書ですね？
- L : はい
- T : はい、じゃー、えーと、いつごろまで、どのくらいの期間の猶予がありますか？
- L : えー、あ、しめ、締め切りまでに（はい）、あの、書いていただければいい、いいので（はい）、あの、1週間くらい時間があります
- T : あ、そうですか
- L : はい
- T : わかりました、じゃ、一応、あの、{L}さんが将来どういうことを考えているとか、そういうことを書いたものを、ちょっと助手さんのほうに届けておいてくれますか？
- L : あ、はい、わかりました
- T : うん、じゃ、来週までに準備しておきますので
- L : はい、あ、では、宜しくお願いします
- T : はい、じゃ、お疲れさま
- L : あ、お疲れさまです（はい）、失礼しました

- T : はい, じゃ (はい) , えーと, 自分の, 今度, アパート, アパートに住んでるんですよ, ね, 今?
- L : はい
- T : 帰って, どんな内容を書いてもらおうかなっていう, あの, 自分の将来のことについて, 今, {L} さんは, パソコンで一生懸命書いています
- L : はい
- T : そしたら廊下で, おんなじアパートに住む子どもたちが騒いでいます (はい) , でも, とても集中できないので, 子どもたちに怒ってみてください
- L : 怒って?
- T : はい, イエーイイエイイエイ ( <笑> ) , ねーねーねー, これ, すごいよ, すごいよ, これ, 遊ぼうよ, ね, イエーイイエイイエイ
- L : あの, あなたたち, ちょっと…
- T : え, なに, お姉ちゃん?
- L : あの, あのね (うん) , あの, お姉ちゃんね (うん) , 今, ちょっと, あの, 大事な書類を書いてるんだけど (うん) , あの, ちょっと, 他のところで遊んでくれない?
- T : えー?, だってさ, 雨降ってるんだもん
- L : じゃ, ちょっと, 静かに遊んでくれない?
- T : えー?, ちょ, 結構静かにしてるつもりなんだけどなー
- L : あ, でも, お姉ちゃん, ほんとに集中できなくて, ほんと今大変だから
- T : うんうんうん, え, じゃーさ, あとで遊んでくれる?
- L : あ, いいよいいよ
- T : じゃー, しょうがない, じゃーね
- L : あ, ありがとね
- T : はい, ありがとうございます<笑> ( <笑> ) , えー, こ, アパートはどうですか, 静かですか?
- L : 静かですね, あの, あたし, お墓に囲まれてるんですよ, アパートが<笑>
- T : おー, はいはい
- L : はい, で, ほんとに静かで (ふーん) , あんまり人通りもないとこ (あー) , あの, {地名} ってわかりますか?
- T : はいはい
- L : {地名} の, ほんとにすぐ近くに (はー) 住んでるんですけど, もう, お墓お墓, わたしのアパート ( <笑> ) みたいな感じ<笑>, なんですけど…
- T : じゃ, そんなうるさいって感じはないんですね
- L : もう, 全然大丈夫ですね (はい) , 超静かですね
- T : あー (はい) , それはよかったです, じゃ, いつも集中できるということで
- L : そうですね<笑>
- T : いっぱい勉強ができる環境
- L : あまり勉強してないんですけど<笑> ( <笑> )
- T : はい, わかりました, じゃ, 今日はありがとうございます
- L : あ, ありがとうございます